

かにするに必要の書である。

ハイカイヒヤクイチシユウ 俳諧百一集 一冊。越中の俳人八椿舎康工の著で、明和二年四月の印行。俳士百人を選んで一句宛を記し、その句評と畫像を添へたものである。その中に金澤の一笑・萬子・秋之坊・句空・凡兆・從吾・舎桑・素風・珈涼・禹洗・生可・左菊・封卜・大阜・麥水・蘭更・可枝・既白・希因、松任千代、所口の司鱸・晩九が擧げられてゐる。

ハイカイヒヤクイチシユウ 俳諧百一集 一冊。金澤の俳人槐庵大夢編。嘉永三年十月江戸英大助等・金澤八尾屋喜兵衛板。越中の八椿舎康工が、明和二年に出板した俳諧百一集を小冊に改め、その評註だけを除いたものである。

ハイカイマガリガネ 俳諧曲尺 小本一冊。大坂鹽屋忠兵衛板。内題には四季詞寄いろは分俳諧曲尺、外題には俳諧まがりかねとあつて季寄の書である。その序に『ちと世ふるともくちる事あらざる風流の木々をあつてまがりかねとなつたまふよし。これをもて句つくるうへにもなをく正しかれとのこゝろならんかし。明和八年の冬かゞ千代尼』とあるから、千代は序文をのみ認めたのであらうが、卷末の目錄に『俳諧まがりかね、四季を十二月に部を分、いろは引にして甚だ見やすからしむ。小本一冊、千代尼著』とあつて、千代尼の著として賣出したものであらう。

ハイカイマツノコエ はいかい松の聲 ↓ チヨニクシユウ 千代尼句集(二)。

ハイカイミトセグサ 俳諧三年草 一冊。七尾の俳人大野長久三回忌の集で、長久の四季發句を主とし、諸家の追悼吟等が載せられ

る。序は寶永元年初夏言水、寶永元歲申彌生日能登七尾細流軒長久孫大野氏龜助、跋は申のとし彌生下句洛下晩山。刊記は無い。

ハイカイモウギユウ 俳諧蒙求 三冊。金澤の俳人麥水著。自序は明和七年孟陽日加州金澤堀樗庵逸人。蒙求の禮に倣ひ、八田鹿鳴・桃青蛙聲の如き四字對句凡そ三十六章を題とし、俳壇に於ける種々の故事を記して、その雅趣と俳味とを説明したものである。稿本の儘傳へられる。

ハイカイヲリソヘシユウ 俳諧折添集 一冊。近江芋々園半丈著。天保十四癸卯三月十三日蒼虬の小祥忌を著者が會主となつて營んだ時の追善句集である。天保庚辰夏六月中川祿の序がある。

ハイカエキヒヨウチュウ 梅花易評註 一冊。新井白蛾著。此の書は梅花易といふ即考の占術の誤謬あるを正し、古易を學ぶ一助となることを説いたものである。

ハイカヒヤクエイ 梅花百詠 一冊。寶曆二年菅公八百五十年祭に當り、北野神社に奉納する爲、七言絶句梅花百詠一人一首宛を集めたものである。卷首に集定蘭嶼端章・鯤溟仲尙・陸渾山良とある。

ハイカヒヤクエイ 梅花百詠 空翠野村圓平の作。嘉永五年菅公九百五十年忌に當り、空翠は秦少游の題に倣うて、梅花百詠の詩を賦し、梓に上せて之を太宰府・北野の兩管廟に上つたものである。

ハイカムジンソウ 梅花無盡藏 三十三冊。加賀藩の土岩原規が、前田利家から治脩に至る間の種々の事歴を輯集したものである。ハイゴウイヘヨシ 拜郷家嘉 通稱五左衛

門。柴田勝家の裨將。天正八年佐久間盛政等の金澤御坊を攻めた時、及び十月勝家が江沼郡の一揆坪坂新五郎を滅ぼした時、家嘉は並びに之に與り、同年織田信長から大聖寺城主に任ぜられた。次いで十年盛政の鹿島郡荒山の砦を攻めた時には、石動山口を守備し、十一年勝家が羽柴秀吉と戦ふ爲近江に出兵した時にも之に従ひ、四月二十日盛政の命によつて柴田勝政を救はんとし、石川兵助と戦うて命を殞した。

ハイゴウジダユウ 拜郷治太夫 五左衛門家嘉の子。佐久間盛政に仕へ、天正十年魚津役に戦功を立て、盛政の死後前田利長の守山在城の時にはその小姓中にあつた。後丹羽長重に仕へて慶長五年八月淺井駿に奮闘し、水越總殿助に討たれた。

ハイザンモンボン 梅山開本 曹洞宗の僧。美濃の人。行脚して加賀の佛陀寺に來り、大源宗眞の印可を受け、次いで越前龍源寺の開山となり、加賀に金剛寺を開き、總持寺に昇り、龍澤寺に歸つた。將軍足利義滿その道譽を聞き、命じて京に上らしめんとしたが可かず、應永廿四年九月寂。梅山は最も詩に巧みであつた。

ハイシ 稗史 加賀藩に於ける稗史の著者は、寶曆から天明の間に活躍した堀麥水を第一に擧ぐべきであらう。麥水の本領は俳諧であつたが、奇才縦横、傍ら指を稗史の著作に染めて、慶長中外傳・寛永南島變・昔日北華錄・琉球圖和録・三國圖通傳・難波戰記・説弘難波録・北倭紀事等を出した。筆路暢達、毫も苦澁の跡を止めぬもの、全く前後にその比を見ぬ。その他寶永六年に成つた見語大鵬選十卷、

享和三年になつた野狐物語、年代不詳の越路加賀見があつて、共に大槻内藏允の流刑事件を取扱ひ、安永の比の道庵夜話二十五卷は、加州三俠士の傳奇とし、安永九年東武講師の名を以て出した金城失繩編と、年代不詳の兩家越路雁金とは、並びに藩士高田善藏が中村萬右衛門を殺害した顛末を述べ、天保九年發山人雲山亭の筆に成る復讐藤英傳、年不詳敵討神の靈告の近藤忠之丞仇討一件を記したる、年不詳長天者一水の名による百姓三太の仇討を書いた加賀羽二重の如き類は少くないが、いづれも筆致平凡にして、俗悪見るに堪へぬものゝみである。是等は全く事實に基づいて多少の脚色を加へたものであるが、加賀羽二重だけは架空のものと思られる。又加賀片隅乞色軒復禮と署名し、極死善色と題する冊子は、町人戸水屋善兵衛が妓古今と、金澤犀川法島河原に情死した事實を書いたもので、間々方言を交へてゐるが、八文字屋張りの文章を綴つた異色あるものである。

ハイシ 梅枝 ↓ ウスキバイシ 確井梅枝。ハイシツ 梅室 ↓ サクラキバイシツ 櫻井梅室。

ハイシツオウキネノロク 梅室翁紀年録 一冊。俳人櫻井梅室一生の年譜で、その大祥忌に當り山本春松の編輯する所。春松は梅室門下で、尾張知多郡半月村の人である。嘉永甲寅夏四月宗秋の序がある。

ハイシツカシユウ 梅室家集 二冊。梅室著、林曹校。序は桑門虛白、跋は天保丙申仲秋水哉舎運流。梅室の俳句集であるが、その中に天保四年聚臺梅田年風が發起して、卯辰心蓮社の北枝の碑を築き直した事などが記さ